

して検査を受けることができます。

しかし、MRI に比べて CT は検査時間が短いメリットがあります。そして MRI は強い磁場を使っているため、CT には見られない MRI ならではの制限や注意事項があります。詳しくは検査時に診療放射線技師がご説明します

MRI は造影剤と用いることで、早期の肝細胞癌の発見に優れていることが知られています。CT は造影剤と用いることで細かい病変や血管の描出に優れ、両者を組み合わせて治療計画を練ることが多いです。

	媒体	特徴	部位
CT	X線	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 検査時間が短い ◎ 空間分解能が高い ◎ MRI より CT のほうが静音 × 被ばく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭部 ・ 胸部 ・ 腹部 ・ 骨
MRI	磁気	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 被ばく無し ◎ 組織コントラストが高い × 検査時間が長い × ペースメーカー装着不可 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭部 ・ 腹部 ・ 神経 ・ 脊髄

キャノンメディカルシステムズ株式会社 HP より引用 https://jp.medical.canon/general/CT_Comparison

② 毎回、造影剤を使うたびに同意書を書かされるのはなぜ？

CT や MRI 検査において使用する造影剤は、病気の診断や、状態を明らかにすることに役立ちます。造影剤は多くの方にとってはとても安全な薬剤ですが、危険性（副作用）が全くないわけではありません。検査中は診療放射線技師や看護師・医師が患者さんの様子を観察しています。万一、重篤な副作用が起きた場合は、迅速に処置を行なえるよう、当画像検査センターでは年 2 回の患者急変時対応訓練を行っております。

《著者紹介》



関口 達也（せきぐち たつや）

2009 年 東海大学医学部卒、研修医

2011 年 東海大学医学部付属病院画像診断科

放射線診断専門医・指導医、日本 IVR 学会専門医

所属学会：医学放射線学会、IVR 学会、腹部放射線学会、門脈圧亢進症学会、静脈学会